

2023年3月期第1四半期 業績概要

窪田 顕文

アンリツ株式会社
取締役 専務執行役員 CFO

2022年7月28日



本資料に記載されている、アンリツの現在の計画、戦略、確信などのうち、歴史的事実でないものは将来の業績等に関する見通しであり、リスクや不確実な要因を含んでおります。将来の業績等に関する見通しは、将来の営業活動や業績に関する説明における「計画」、「戦略」、「確信」、「見通し」、「予測」、「予想」、「可能性」やその類義語を用いたものに限定されるものではありません。実際の業績は、さまざまな要因により、これら見通しとは大きく異なる結果となりうることをご承知おきください。

実際の業績に影響を与えうる重要な要因は、アンリツの事業領域を取り巻く日本、米州、欧州、アジア等の経済情勢、アンリツの製品、サービスに対する需要動向や競争激化による価格下落圧力、激しい競争にさらされた市場の中でアンリツが引き続き顧客に受け入れられる製品、サービスを提供できる能力、為替レートなどです。

なお、業績に影響を与えうる要因はこれらに限定されるものではありません。また、法令で求められている場合を除き、アンリツは、あらたな情報、将来の事象により、将来の見通しを修正して公表する義務を負うものではありません。

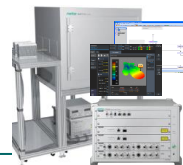
目次

1. 事業概要
2. 2023年3月期第1四半期 連結決算概要
3. 2023年3月期 通期業績予想（連結）
4. 当社の取り組みについて

1. 事業概要

通信計測事業

ネットワーク社会の進化・発展



- ▶ モバイル市場 : 5G、5G利活用
- ▶ ネットワーク・インフラ市場 : データセンター、光NW、無線NW
- ▶ エレクトロニクス市場 : 基地局建設保守、電子部品、無線設備

PQA事業

食の安全・安心



- ▶ X線検査機
- ▶ 金属検出機
- ▶ 重量選別機

その他



▶ 環境計測

▶ センシング
& デバイス



(セグメント別売上比率)

2022年3月期 実績 (連結) : 1,054億円

通信計測 70%			PQA 21%	その他 9%
モバイル 57%	ネットワーク・インフラ 26%	エレクトロニクス 17%		

2023年3月期1Q 実績 (連結) : 262億円

通信計測 71%			PQA 19%	その他 10%
モバイル 57%	ネットワーク・インフラ 26%	エレクトロニクス 17%		

(通信計測事業 地域別売上比率)

2022年3月期 実績

日本 17%	アジア他 45%	米州 24%	EMEA 14%
--------	----------	--------	----------

2023年3月期1Q 実績

日本 11%	アジア他 47%	米州 26%	EMEA 16%
--------	----------	--------	----------

PQA : Products Quality Assurance

2-1. 連結決算概要 - 業績サマリー -

▶ 前年同期比受注は6%増、売上は10%の増収。営業利益は2%の減益、当期利益は39%の増益

(単位：億円)

国際会計基準(IFRS)	前第1四半期 連結会計期間 (4-6月)実績	当第1四半期 連結会計期間 (4-6月)実績	前年同期比 増減額	前年同期比 増減率(%)
受注高	281	298	17	6%
売上高	238	262	24	10%
営業利益	31	30	△ 1	△ 2%
税引前利益	31	39	8	27%
当期利益	21	29	8	39%
当期包括利益	23	67	44	185%

(注) 値はそれぞれの欄で四捨五入 (前年同期比増減額を除く)

2-2. 連結決算概要 - 事業別売上高・営業利益 -

▶ 通信計測：ネットワークの高速化需要や5Gの開発需要が堅調に推移し、前年同期比増収増益

▶ PQA：販売促進費の増加に加えて、部品調達費用や物流費等の増加も影響し、前年同期比減益

(単位：億円)

国際会計基準(IFRS)		前第1四半期 連結会計期間 (4-6月)実績	当第1四半期 連結会計期間 (4-6月)実績	前年同期比 増減額	前年同期比 増減率(%)
通信計測	売上高	168	186	18	11%
	営業利益	29	34	5	19%
PQA	売上高	51	51	△0	△0%
	営業利益	4	△1	△5	-
その他	売上高	19	25	6	32%
	営業利益	0	△1	△1	-
調整額	営業利益	△2	△2	△0	-
合計	売上高	238	262	24	10%
	営業利益	31	30	△1	△2%

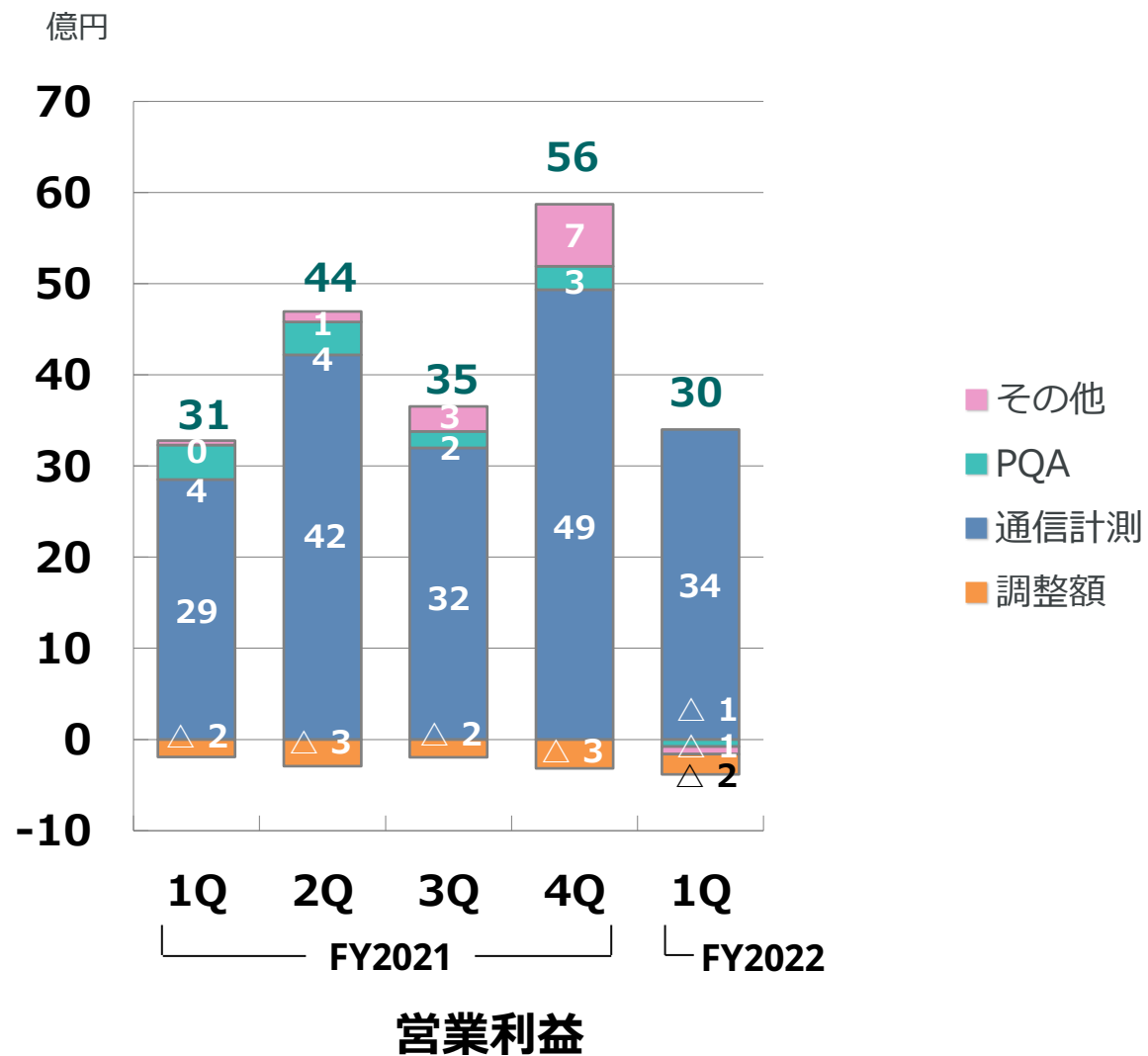
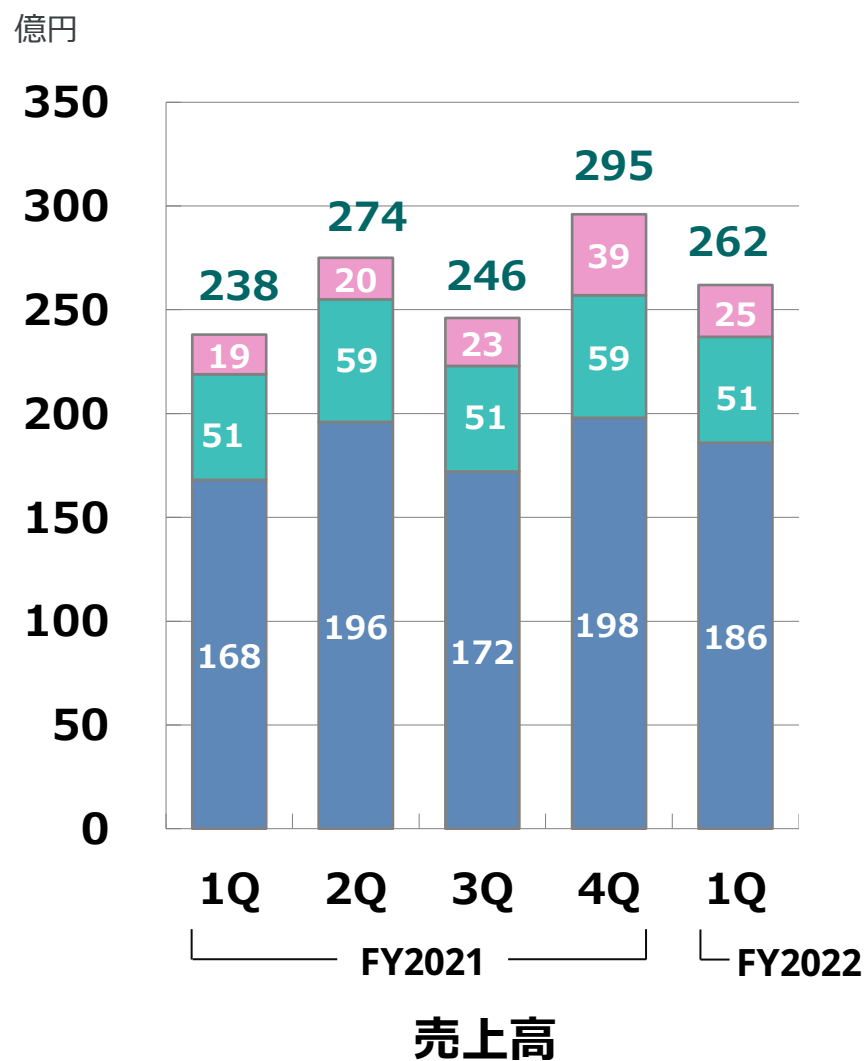
(注1) 値はそれぞれの欄で四捨五入（前年同期比増減額を除く）

(注2) 調整額にはセグメント間取引消去、各事業セグメントに配分していない全社費用が含まれています。

PQA：Products Quality Assurance

2-3. 連結決算概要 - 四半期毎 売上高・営業利益 -

▶ 1Q(4-6月)営業利益率：連結 12%，通信計測 18%



(注) 値はそれぞれで四捨五入

セグメント 2023年3月期（4-6月）の状況

➡ 通信計測：5Gサービスは初期導入から、機能拡充のフェーズに移行。
データセンター高速化が好調

モバイル	5G開発需要は欧米市場の拡大に期待
------	-------------------

ネットワーク インフラ	データセンター等への投資が好調
----------------	-----------------

アジア他	5Gサービスへの投資は緩やかだが、堅調
------	---------------------

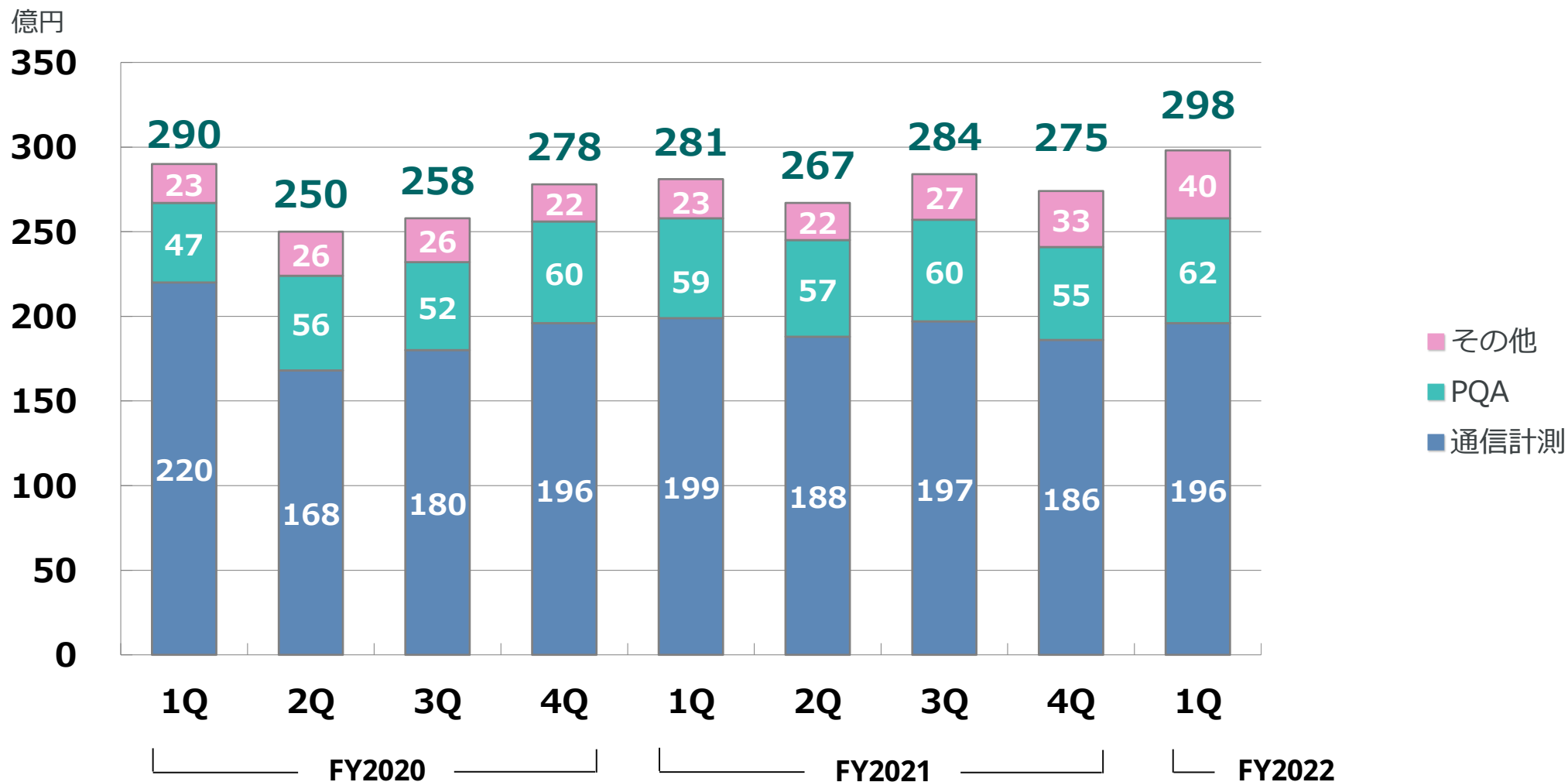
アメリカ	データセンター高速化が好調。5Gへの投資が回復傾向
------	---------------------------

➡ PQA：食品市場の自動化、省人化を目的とした設備投資は堅調

2-5. 受注高推移

通信計測：前年同期比 2%減、前第4四半期比 5%増

PQA：前年同期比 5%増

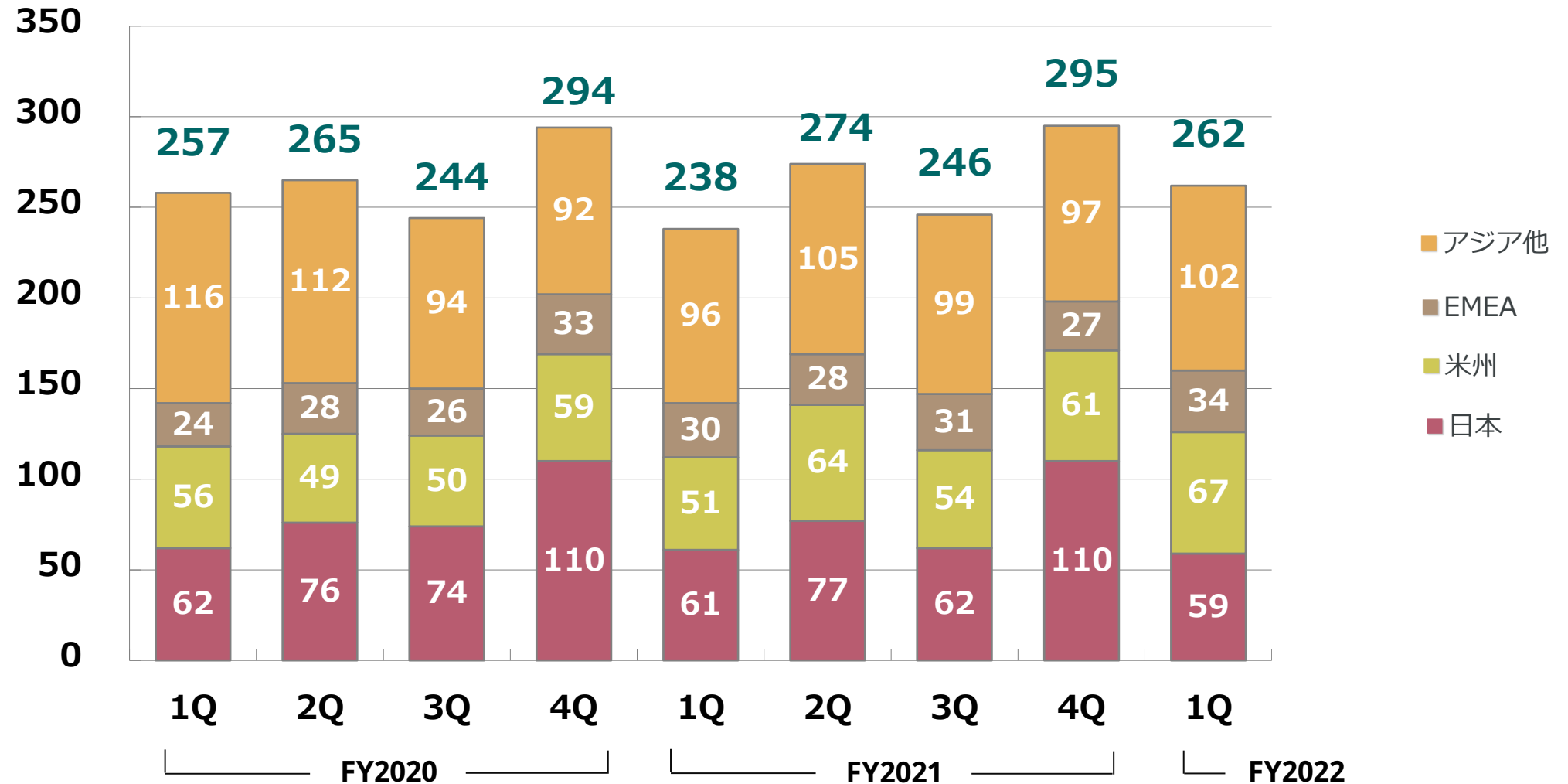


(注) 値はそれぞれで四捨五入

2-6. 地域別売上高推移

▶ 海外各地域で前年同期比増収

億円



(注) 値はそれぞれで四捨五入

2-7. キャッシュフロー

▶ 営業CFマージン率1.1%

FY2022 (4-6月)

- ① 営業CF : 3億円
- ② 投資CF : △16億円
- ③ 財務CF : △63億円

フリーキャッシュフロー
(① + ②) : △13億円

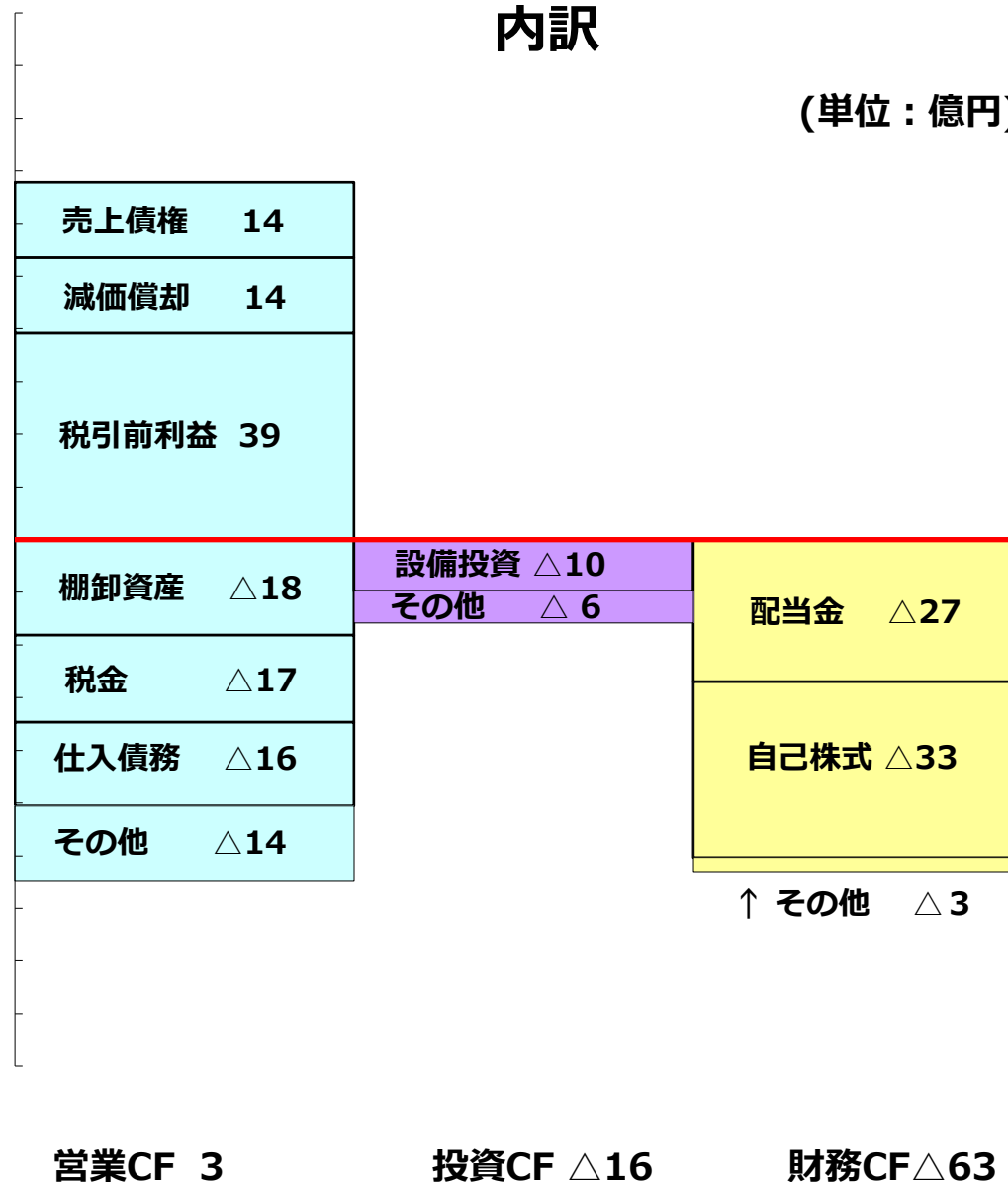
現金同等物期末残高
399億円

有利子負債高
67億円

(注) 値はそれぞれで四捨五入

内訳

(単位：億円)



3. 2023年3月期 通期業績予想（連結）

▶ 4月28日公表値から変更なし

（単位：億円）

		2022/3期		2023/3期	
		前期実績	通期予想	前年同期比 増減額	前年同期比 増減率(%)
売上高		1,054	1,150	96	9%
営業利益		165	190	25	15%
税引前利益		172	190	18	11%
当期利益		128	140	12	9%
通信計測	売上高	733	780	47	6%
	営業利益	152	175	23	15%
PQA	売上高	220	240	20	9%
	営業利益	12	13	1	11%
その他	売上高	101	130	29	29%
	営業利益	11	12	1	7%
調整額	営業利益	△ 10	△ 10	0	-

（参考）FY21 為替レート
FY22想定為替レート

: 1米ドル112円、1ユーロ=131円
: 1米ドル120円、1ユーロ=135円

（注） 2022年1月4日に統合完了した高砂製作所の業績は、その他事業に含まれています。

（注） 値はそれぞれの欄で四捨五入（前期比増減額を除く）

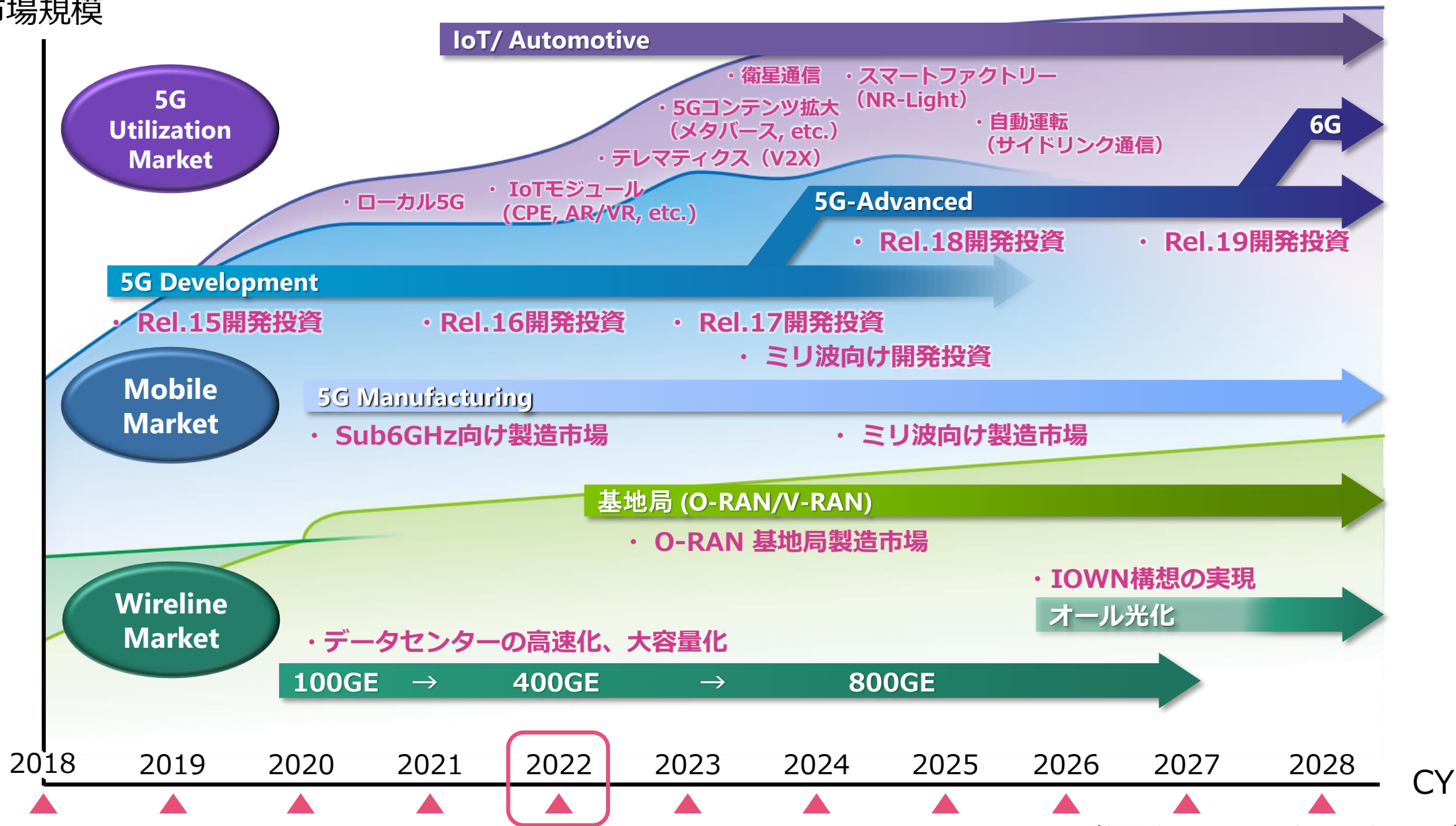
4. 当社の取り組みについて

濱田 宏一

アンリツ株式会社
代表取締役 社長

4-1. 通信計測市場トレンドと事業機会

市場規模



(CPE: Customer Premises Equipment、顧客構内設備)

半導体調達状況：依然として調達困難な状況

半導体の平均LTは400日前後

対策：

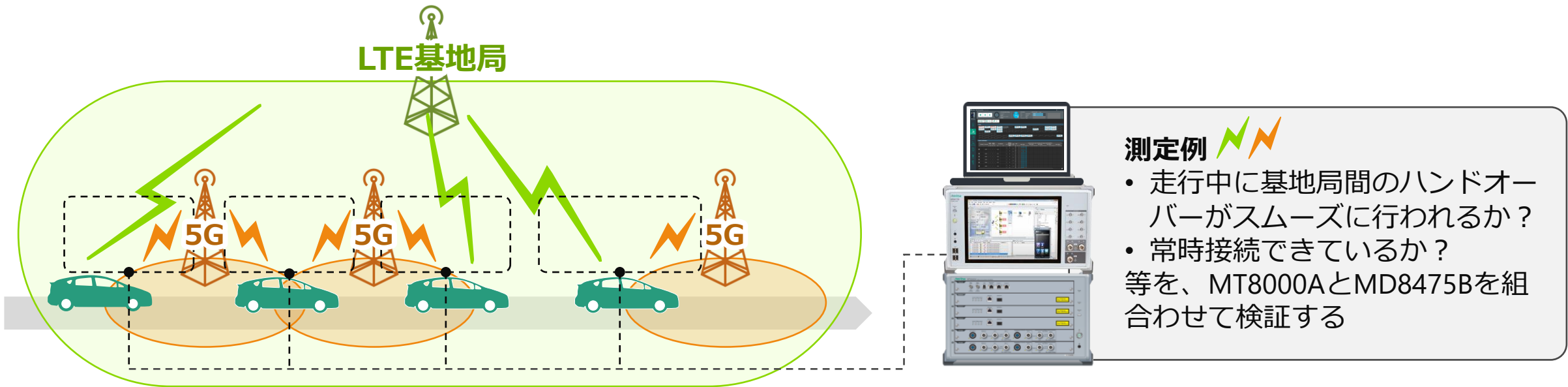
- 部品手配を、従来は4か月先が中心だったが、**8か月先までの仕込み**に延長
- 長納期部品（8カ月超のもの）をリストアップし、**先行手配（1年以上前に発注）**
- 20機種以上の製品に対し設計変更を実施。**300品目以上を入手性の良い代替品に置換え済み**
- 重要性の高い戦略部品は**安全在庫を増加**

生産状況：

2Qの生産に対する部材はほぼ調達済み

5G搭載車リリースに向けた5Gテレマティクス機能の開発

MX728000A SmartStudio Automotive Suite



■ 特徴

Automotive特有のニーズである高速移動&常時接続を検証するためのテストケースを提供

■ 対象市場

- 自動車（コネクテッドカー、自動運転）

■ 対象顧客

- 自動車メーカー、農機・建機メーカー、車載通信機メーカー：Tier1、など

4-4. 製品紹介：6G開発用途向けソリューション

Beyond 5G/6G 材料、基板、デバイス、アンテナの性能評価

ME7838シリーズ ベクトルネットワークアナライザ



■ 特徴

ミリ波拡張モジュール追加により、6Gに求められる330GHz帯の高周波試験に対応

■ 対象顧客

高周波デバイスの研究機関および大学、デバイスメーカー、素材メーカー、通信機器メーカー

4-5. 製品紹介：食肉市場向けソリューション

高感度の異物検出、厚みがあり凹凸の多い食肉や冷凍食品などに対応

KXH7534ASGCD デュアルエネルギーセンサ搭載X線検査機

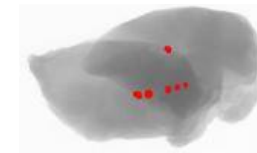
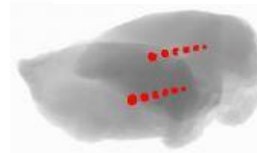


テスト事例（鶏むね肉2枚重ね）



新型機

従来機



赤い点は検出された異物

■ 特徴

新開発のセンサで微細な残骨等を高感度に検出可能

■ 対象顧客

食肉加工メーカー、冷凍食品市場メーカー

Anritsu
Advancing beyond

